

全国市街地の変遷

昭和の記憶から次代へ

高松市は香川県のほぼ中央部に位置する県庁所在地で、中央官庁の出先機関や大手企業の支店が多く、四国の政治経済、文化の中枢管理都市として発展してきた。88年当時の人口は約33万人で、05年9月と06年1月に周辺6町と合併し、新高松市の人口は約41・6万人になった。現在は約42

万人で、ここ数年は微増傾向ないし横ばい傾向にある。平成になって大きく変わったのは交通アクセスで、88年4月に瀬戸大橋が開通。輸送

時間の短縮効果で、時間距離は大幅に改善された。また、中心商業地の様相も大幅に変わった。「高松中央商店街」はほぼ全域をアーケードが覆う8つの商店街からなり、総延長約2・7kmで、全国一の長さを誇る。8つは常磐町商店街、トキワ新町商店街、南町商店街、田町商店街、ライオン通商店街、丸亀町商店街、兵庫町商店街、片原町商店街から形成される。



かつて地価が最も高かった常磐町商店街。スーパー跡地開発が期待されている

構成する8商店街で賑わい取り戻した丸亀町

100年後を見据えて再開発

常磐町の動きも注視

05年9月と06年1月に周辺6町と合併し、新高松市の人口は約41・6万人になった。現在は約42

その中で、88年当時最も繁華性があり地価が高かったのは常磐町商店街であり、同年地価公示(1月1日現在)の価格は1㎡198万円(高松5・7常磐町1の6の7)で、中心部である瓦町駅への接近性も優れるため人通りも多く活気にあふれていた。

また、丸亀町商店街に位置する地価公示地点(高松5・6丸亀町2の5)の価格は同151万円。この商店街も人通りは多く通行量も06年の2倍近くあった。この時期、丸亀町商店街では「開町40

丸亀町商店街の再開発が12年に一部を除き完成し、人通りは増え活性化が見られる。残る未整備地区の開発、隣接する大工町、磨屋町の再開発が進むと、相乗効果により更に賑わいのある街になっていくものと思われる。また、常磐町商店街では、各種イベントの開催が行われているものの、今後の活性化には瓦町駅前15年、リニューアルオープンした複合ビル(瓦町FL AGビル旧高松天満屋)の波及効果と前述のスーパー跡地の開発にかかっており、今後の動向が注目される。

香川県高松市 明暗分かれる「中央商店街」



再開発で賑わいを取り戻した丸亀町商店街

丸亀町商店街では「開町40

丸亀町商店街では「開町40